

第1章 ひょうごの農林水産施策の取組

第1節 総括

1 総括的指標による評価・検証

「ひょうご農林水産ビジョン 2030」全体の活動成果である総括的な指標について、起点である令和元年を上回った項目は、全19項目のうち8項目(42%)となりました。令和元年を下回った項目の主な理由は、担い手の高齢化による農産物生産量の減少や、廃業・減頭が規模拡大等の増頭ペースを上回ったことによる但馬牛繁殖雌牛飼養頭数の減少、降水量が少なく栄養塩低下によってノリ類養殖の産出額が減少したことによる漁業産出額の減少等によるものです。

項目	実績		目標	目標	
	起点 R元①	R4②		②-①	R7 中間
農産物生産量(千t)	474	440	△34	490	494
うち野菜生産量(千t)	283	254	△29	287	290
うち米・麦・大豆生産量(千t)	191	186	△5	193	194
農業産出額(畜産業を除く)(億円)	940	866 ※	△74	986	988
法人経営体数(法人)	610	796	+186	910	1,170
優良農地面積(ha)	61,621	61,560 ※	△61	61,197	61,136
但馬牛繁殖雌牛飼養頭数(頭)	14,060	13,993	△67	15,200	16,000
畜産業産出額(億円)	569	635 ※	+66	626	651
法人経営体数(畜産業)	127	147	+20	139	149
1経営体あたりの但馬牛繁殖雌牛飼養頭数(頭)	12.8	14.5	+1.7	16.2	20.0
素材生産量(千m <sup>3</sup> )	443	593	+150	527	623
林業・木材産業産出額(億円)	594	575 ※	△19	602	634
意欲と能力のある林業経営体(経営体)	29	37	+8	34	38
漁船漁業・海面養殖生産量(千t)	110	107 ※	△3	115	119
うち漁船漁業生産量(千t)	44	48 ※	+4	46	47
うち海面養殖生産量(千t)	66	59 ※	△7	69	72
漁業産出額(億円)	485	412 ※	△73	468	490
漁業者1人あたりの漁業産出額(千円)	11,516	10,276 ※	△1,240	11,642	12,830
漁場環境改善面積(ha)	5,467	5,606	+139	5,579	5,749

※R4の実績は農林水産統計等が未公表のためR3実績

2 成果指標の点検・評価

現時点で評価データのある成果指標48項目(全56項目)の結果について、年度目標を達成「◎:100%以上」又は概ね達成「○:90%以上」している項目は、38項目/48項目(79%)で、ビジョンの目標達成に向けておおむね順調に進んでいると考えられますが、高齢化による担い手不足、取引価格の低下による県産米の輸出量の減少、大規模直売所の廃業などにより成果指標10項目の達成率が90%未満となっています。

達成率が低い各項目について、原因分析のうえ目標達成に向けた取組のさらなる推進が必要となっています。

基本方向/達成率	◎	○	△	▲	項目数	達成割合※
基本方向1 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開	17	9	6	2	34	76%
基本方向2 県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出	7	3	0	0	10	100%
基本方向3 「農」の恵みによる健康で豊かな暮らしの充実	2	0	2	0	4	50%
施策全体(成果指標の項目総数)	26	12	8	2	48	79%

凡例:達成率100%以上◎ 90~100%○ 80~90%△ 80%未満▲ ※達成割合:90%以上の割合

第2節 施策の取組状況—施策の目標と評価—

基本方向1 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開

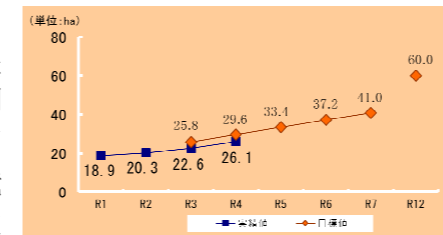
推進項目1 スマート化による新しい農林水産業の実現

(施設園芸における高度な環境制御技術の導入面積)【目標達成状況:△】

小規模生産者に対しても機器導入を進めるとともに、技術習得のための研修の実施など機器導入後のフォローアップ体制の充実を進めた結果、前年より3.5ha増加しましたが、新型コロナウイルス等の影響により前年度以前の導入が低調であったため、目標をやや下回りました。

今後は、環境制御機器の導入や環境制御に取り組む前段階となる環境モニタリング機器の導入等、生産者の経営状況に応じた支援等により高度な環境制御技術の導入を推進します。

施設園芸における高度な環境制御技術の導入面積

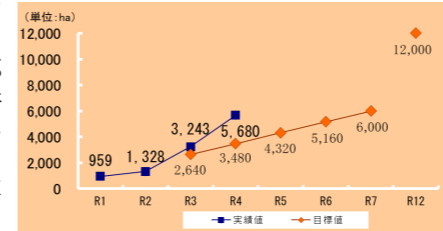


(土地利用型作物等における主なスマート農業技術利用面積)【目標達成状況:◎】

農薬散布用のドローンや高性能田植機の導入が進んだことから、目標を達成しました。

今後も、地域毎の多様な土地利用型農業に対応した営農技術体系の確立や課題を抱える産地とスマート農業技術を持つ企業とのマッチングや、スマート農機のシェアリングを推進することによりスマート農業技術の導入を推進します。

土地利用型作物等における主なスマート農業技術利用面積



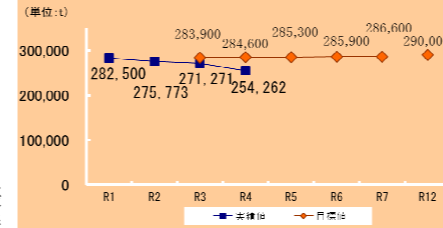
推進項目2 多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開

(野菜生産量)【目標達成状況:△】

担い手の高齢化による作付面積の減少や、たまねぎの収穫量の減少により、目標を下回りました。一方、えだまめやブロッコリーでは集出荷貯蔵施設の整備等が進んだこと等により、作付面積・生産量は増加しています。

今後は、機械化による農作業の省力化、集落営農組織や企業参入などの多様な担い手による野菜生産の取組を支援し、県産野菜の生産拡大に取り組んでいきます。

野菜生産量

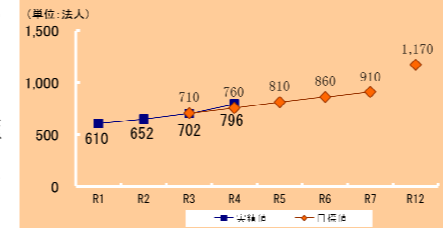


(法人経営体数)【目標達成状況:◎】

個別経営体の法人化に加え、事業の多角化や原材料の確保等を目的とする農外企業の参入が進んだこと等により目標を上回りました。

今後は、専門家の指導による経営確立、経営継承への支援等により収益力や持続可能性の高い経営の実現に向けた取組を支援します。

法人経営体数

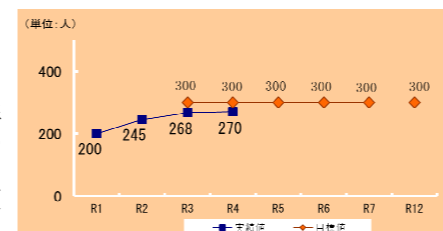


(新規就農者数)【目標達成状況:○】

新規就農者数は、コロナ禍を契機とした移住・就農への関心が高まる一方、他産業との人材の引き合い等により目標を下回りました。

今後は、就農支援センターによる伴走支援、地域就農・定着応援プランの作成促進とプランを活用した就農マッチングの実施等による就農・くらし支援体制の構築等を進め、地域農業を担う新たな人材の確保に向けた取組を推進します。

新規就農者数

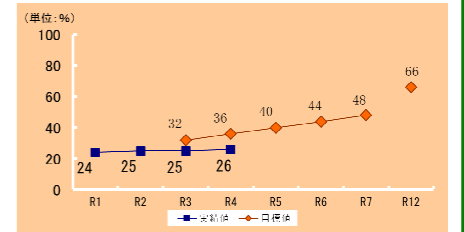


(担い手への農地集積率)【目標達成状況:▲】

農地所有者と担い手の条件面でのミスマッチや、担い手の世代交代が進んでいないこと等により目標を下回りました。

今後は、関係機関が有する地域の人・農地に関する情報を有機的に連携させ「地域計画」の実現に向け、担い手への農地集積に向けた取組を支援します。

担い手への農地集積率

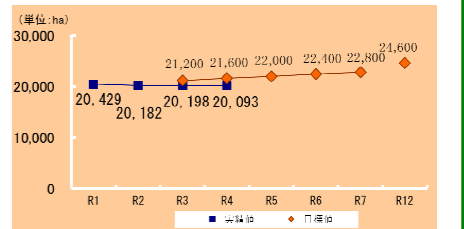


(環境創造型農業取組面積)【目標達成状況:○】

新規に取り組む生産者がある一方で、高齢化等の理由により取組をやめる生産者もあり目標をやや下回りました。

今後は、国のみどりの食料システム戦略に関する交付金等も活用し、環境にやさしい栽培技術と省力化に資する技術を取り入れた栽培体系への転換等の支援を行います。

環境創造型農業取組面積

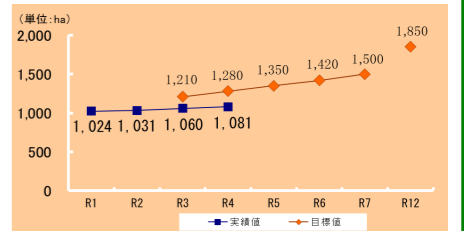


(有機農業取組面積)【目標達成状況:△】

光都、但馬、丹波、神戸など着実に伸びている地域がある一方、手間のかかる農法であることから急な規模拡大が困難なため全体としては目標を下回りました。

今後は、国のみどりの食料システム戦略に関する交付金等を活用し、市町等を中心とした産地づくりを支援するとともに、新規参入者の育成等を進めることにより、有機農業の取組拡大を推進します。

有機農業取組面積

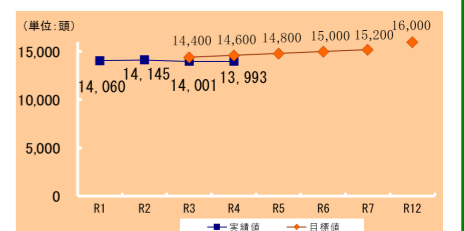


推進項目3 需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化

(但馬牛繁殖雌牛頭数)【目標達成状況:○】 但馬牛繁殖雌牛頭数

農家の高齢化等による廃業・減頭や飼料価格の高騰による増頭意欲の低下によって、目標をやや下回りました。

今後は、繁殖雌牛の導入及び牛舎整備・改修への支援や、新規就農者の初期投資軽減を図る等により、さらなる但馬牛繁殖雌牛の増頭を推進します。



(但馬ビーフ供給頭数)【目標達成状況:10月】 但馬ビーフ供給頭数

R4実績は10月判明予定



# 農林水産政策白書「ひょうごみどり白書 2023」の概要

## 第1章 ひょうごの農林水産施策の取組

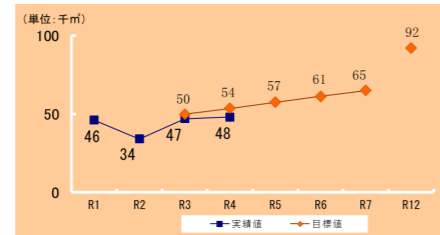
### 推進項目4 木材利用の拡大と資源循環型林業の推進

（県内製材工場の製品出荷量）【目標達成状況：△】

ウッドショック等により、県産木材需要が増加した一方で、乾燥機の処理能力の制限等から、目標をやや下回りました。

今後は、乾燥機等の木材加工施設の導入を進め、県産木材製品の供給体制の強化を図ります。

県内製材工場の製品出荷量

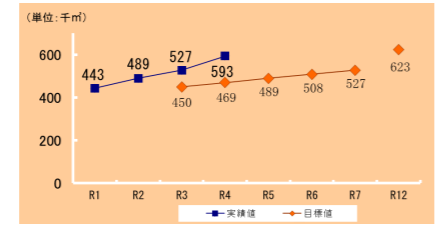


（県内素材生産量）【目標達成状況：◎】

ウッドショック等により、チップ材を中心に県産木材全体の需要が増加し、目標を上回りました。

今後も、計画的な事業地の確保により、素材生産量の増加に向けた取組を推進します。

県内素材生産量

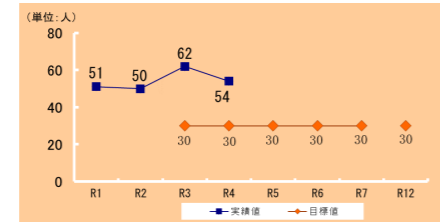


（林業の新規就業者数）【目標達成状況：◎】

緑の雇用制度の積極的な活用や民間林業事業体への就業者の増加により、目標を達成しました。

今後も、県立森林大学校での人材育成や都市部で開催される就業ガイダンスへの参加等により、新規就業者の確保・育成に向けた取組を推進します。

林業の新規就業者数



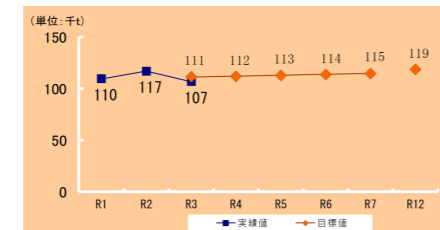
### 推進項目5 豊かな海と持続的な水産業の実現

（漁船漁業・海面養殖生産量）

【R3年度】日本海では沖合底びき網漁業で堅調な水揚げとなったものの、瀬戸内海で養殖ノリが不作となったため、前年より減少しました。

今後は、栄養塩の供給や漁場の整備、豊かな海の再生のための栽培漁業に取り組むとともに、資源状況に応じた適切な資源管理等、漁船漁業・海面養殖生産量の増大に向けた取組を推進します。

漁船漁業・海面養殖生産量

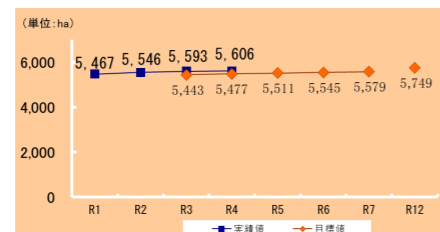


（漁場環境改善面積）【目標達成状況：◎】

漁場整備事業の実施が計画的に進んでおり、目標を達成しました。

今後も、豊かな海の再生に向けて、水産資源の増殖や再生産の場となる漁場整備事業の推進により漁場環境の改善に取り組めます。

漁場環境改善面積



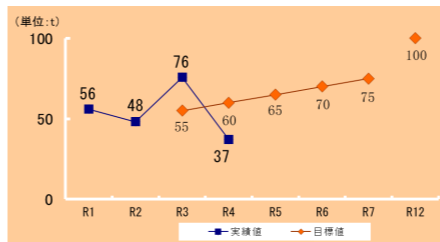
### 推進項目6 農林水産物のブランド力強化と生産者所得の向上

（兵庫県産米の輸出量）【目標達成状況：▲】

取引価格が低下したことで輸出を停止・減少させた生産者があったことから、前年度から大幅に減少した37tとなり目標を下回りました。

今後は、他品目と組み合わせたプロモーションの実施や高価格帯で取引可能な国内商社とのマッチング等の支援により県産米の輸出拡大に取り組みます。

兵庫県産米の輸出量

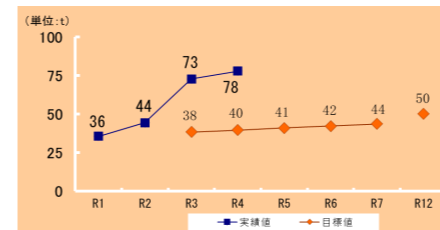


（神戸ビーフ輸出量）【目標達成状況：◎】

海外プロモーションや海外でECサイトによる販売等が好調であったため、目標を達成しました。

今後も、海外へ神戸ビーフの美味しさ等の魅力を発信して神戸ビーフの輸出拡大に取り組みます。

神戸ビーフ輸出量



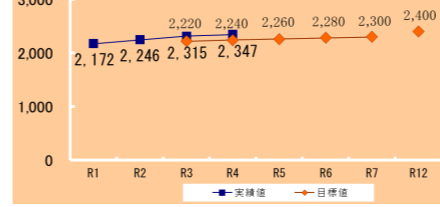
### 推進項目7 食の安全を支える生産体制の確保

（兵庫県認証食品認証数）【目標達成状況：◎】

前年度から32品目増加し、目標を達成しました。

今後も、ひょうご認証食品制度の理解促進を進め、認証取得を働きかけるとともに、認証食品カタログの発行・配付、ホームページやSNS等を活用したPRなど、兵庫県認証食品の認知度向上に取り組めます。

兵庫県認証食品認証数



### 基本方向2 県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出

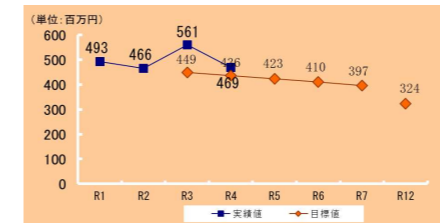
#### 推進項目8 特色を活かした活力ある地域づくりの推進

（野生鳥獣による農林業被害額）【目標達成状況：○】

積雪による防護柵の破損に伴う林業被害の発生や、野生鳥獣の分布拡大に伴う防護柵未整備地域における農業被害の発生等の理由により、やや目標を下回りました。

今後は、科学的データに基づく被害防除、個体数管理、生息地管理による総合的な野生動物の管理を更に強化します。

野生鳥獣による農林業被害額



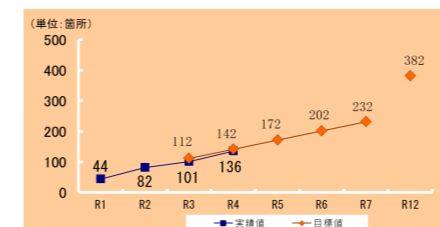
#### 推進項目9 農山漁村の防災・減災対策の推進

（ため池整備により安全性が向上した箇所数）【目標達成状況：○】

改修整備と廃止工事を合わせて35箇所新規着手しましたが、目標をやや下回りました。

今後は、「兵庫県ため池防災工事等推進計画」に基づき、集中的かつ計画的にため池整備に取り組めます。

ため池整備により安全性が向上した箇所数



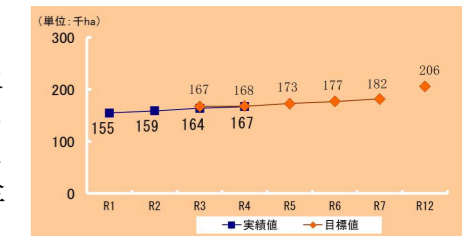
### 推進項目10 豊かな森づくりの推進

（「新ひょうごの森づくり」整備済面積）【目標達成状況：○】

奥山等の条件不利地での間伐が遅れたことなどにより、目標をわずかに下回りました。

今後は、森林環境譲与税を活用した条件不利地の間伐を促進するとともに、地域住民やボランティア団体による森林整備活動への支援等により健全な里山林の整備を促進します。

「新ひょうごの森づくり」整備済面積



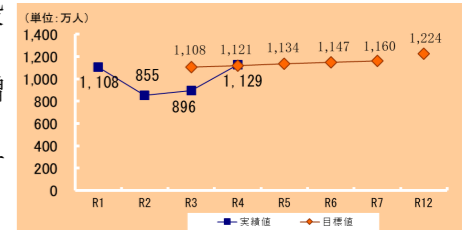
### 基本方向3 「農」の恵みによる健康で豊かな暮らしの充実

#### 推進項目11 食と「農」に親しむ楽農生活の推進

（楽農生活交流人口）【目標達成状況：◎】

事業の活用等による新規施設の開設が進んだ結果、大型屋外施設をはじめ、多くの施設で前年度に比べて実績が増加し、目標を上回りました。

今後も、農林漁業体験施設を開設する際の支援を図り、楽農生活交流人口の拡大に向けた取組を推進します。

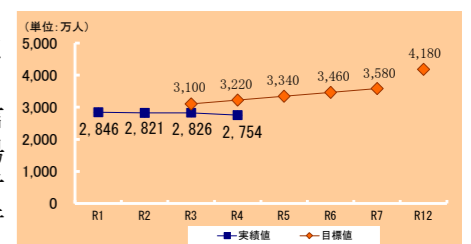


#### 推進項目13 県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進

（直売所の利用者数）【目標達成状況：△】

外出自粛や大型店舗の廃業等に伴う購入機会の減少により目標を下回りました。

今後は、各直売所の取扱商品の発信力強化や専門家の派遣を通じた売り場の魅力向上等を図るとともに、利用者の利便性向上に向けた取組の支援を行い、直売所の利用拡大を推進します。



## 第2章 トピックス 「農」をめぐる最近の情勢ー

最近の「農」をめぐる主なトピックスを掲載

- 【農業】 ① 有機農業含む環境創造型農業の推進
- ② 地域農業の将来図、「地域計画」の取組推進
- 【スマート技術】 ③ ドローンによるセンシング技術の実証等の取組推進
- ④ スマート農業を見据えた畑地のほ場整備の実施
- ⑤ 航空レーザー測量データを活用した地籍調査及び森林管理の推進
- 【畜産業】 ⑥ 美方郡産但馬牛飼育システムが世界農業遺産認定
- 【水産業】 ⑦ マダコ種苗生産技術開発に着手
- 【県民】 ⑧ 国内外の県産食材の販路開拓
- ⑨ 学校給食における県産食材の利用拡大
- 【研究】 ⑩ 県立農林水産技術総合センターによる開発技術
- 【顕彰】 ⑪ 表彰